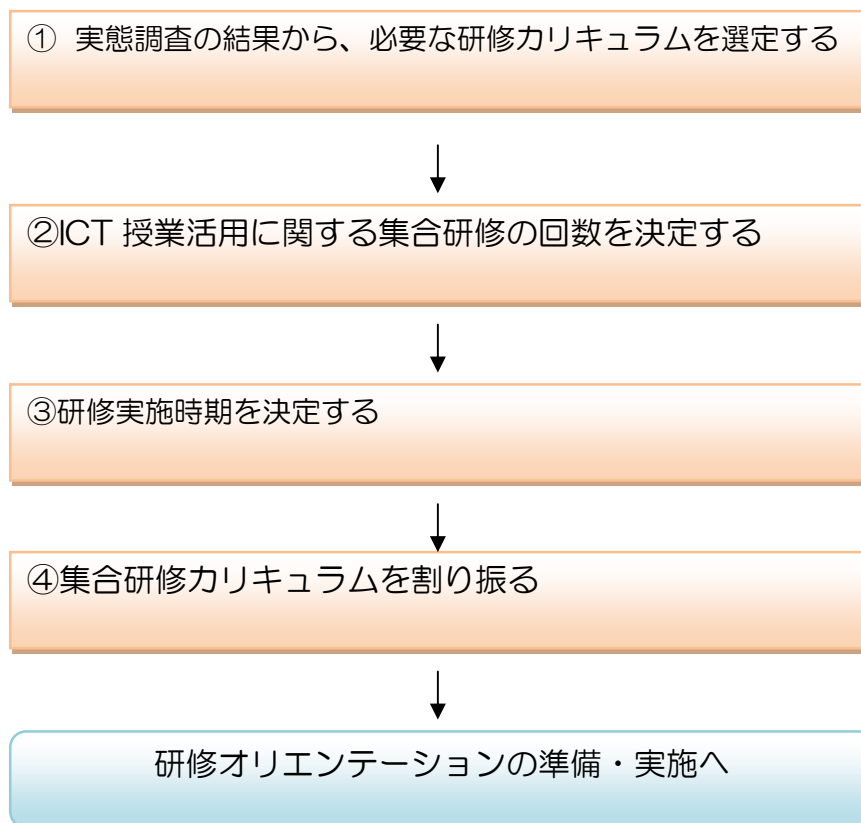


2-6 実態調査結果に基づく研修計画の立案

実態調査で、個人と学校の実態分析が終わったら具体的な研修計画を立てて、研修オリエンテーションで提案していきます。ここでは、研修計画立案までの手順をステップごとに示します。



① 実態調査の分析から、必要な研修カリキュラムを選定する

限られた研修回数の中で、学校全体の ICT 授業活用力の向上を図るには、校内研修の中で優先的に研修すべき内容から実施することが第一歩です。

「ICT 授業活用力評価ツール」を使って、集合研修カリキュラムの中で、職員への指定数が多いものを調べ、多い順に並べてみましょう。また、実態調査時にとった職員の研修ニーズのアンケート結果とも照らし合わせておきましょう。

② ICT 授業活用に関する集合研修の回数を決定する

研修回数については、学校ごとの年間職員研修計画によって異なりますが、実態

調査の実施や研修オリエンテーションを除いて、年間3回は実施したいところです。

③ 集合研修の実施時期を決定する

実施時期については、研修にじっくりと取り組める夏期休業期間中を中心に設定するのが妥当です。

但し、集合研修は操作と活用の体験を通して日常の授業実践につないでいくものですので、夏期休業期間中に研修を集める場合は、2学期以降の支援が重要となります。集合研修を日常化につなげる個別支援の工夫は2-11で紹介します。

④ 研修カリキュラムを割り振る

優先研修カリキュラムが決まったら、実施時期を考慮した上で、配置し、集合研修実施計画を完成させます。

(例)

集合研修カリキュラムの指定が多い順が以下のようになり、集合研修の回数が3回の場合、上位3つのカリキュラムを集合研修の内容として取り上げます。

1	説明時に活用 ICT (思考や理解を深める ICT 活用)
2	学習ゲーム等で活用 ICT (知識の定着を図る ICT 活用)
3	課題提示で活用 ICT (興味・関心を高める ICT 活用)
4	やってみよう！インターネットを活用した教材研究
5	評価に活かすデジタルカメラ・ビデオ



夏期休業期間中集中型

集合研修を夏期休業期間中に集め、研修したことを活かした実践期間を2学期として、3学期の初めの実態再調査を実施する計画例です。

4月	実態調査（45分）
5月	研修オリエンテーション（60分程度）
7月	説明時に活用 ICT（思考や理解を深める ICT 活用）
8月	学習ゲーム等で活用 ICT（知識の定着を図る ICT 活用）
8月	課題提示で活用 ICT（興味・関心を高める ICT 活用）
1月	実態再調査（45分）

⑤ 研修オリエンテーションの実施へ

集合研修の計画案が完成したら、研修オリエンテーションを実施します。